



2018年6月26日発行

いわて・みやぎ・ふくしま 便り

No. 1

6月号

日本生協連
組合員活動部

2018年度が始まったと思ううちに梅雨を迎え、あじさいの花が鮮やかに咲く季節となりました。さて、これまで被災地の生協の取り組みについてそれぞれ発行していた被災地応援ニュースを、今号から一つに統合してご案内します。各県名の下にあしらわれた花は、県花（岩手…桐の花、宮城…ミヤギノハギ、福島…ネモトシャクナゲ）です。これからも被災地の情報をご紹介してまいりますので、よろしくお願いいたします。



バスボランティアが行く 大槌町菜の花プロジェクト

いわて生協のバスボラは、ガレキ撤去後の大槌川河川敷を菜の花畑にする「菜の花プロジェクト」活動に加わりました。この活動は、大槌町の金山文造さんが「鎮魂の意味も込めて、河川敷を菜の花できれいにしたい」と始まりました。

最初の河川敷は、掘っても掘っても石やガレキがでてきて、最初に菜の花が咲いたのは季節はずれの冬でした。今年の春に咲く予定だった花は、昨秋に蒔いた種が大雨で流されほとんど咲くことができませんでした。また種を蒔けるように整地作業などを行ってきました。

この日は専修大学のボランティアサークルの学生も参加し、一緒に活動しました。ボランティアの活動が減ったり、大学の復興支援サークルは解散したところが多いと聞きますが、このように継続しているサークルがあるのは嬉しいことです。



震災直後の様子と、この取り組みを始めたきっかけを紙芝居にして披露する金山さん



【参加者の感想】

今回4年ぶりの参加となりますが、以前とは街が様変わりしており、実際に大槌の街が見られて良かったです。菜の花は咲いておらず、河川の増水も自然災害であり致し方ないかと思いますが、金山さんやこれ

までのボランティア参加者様のご努力を思うと、尚一層残念な気持ちになりました。（コープデ
リ連合会の参加者より）



支援をありがとう～ふれあいサロンを開催～

ふれあいサロンに、コープいしかわ、とくしま生協、コープみらいからお菓子を、コープぐんまからは布を、医療生協さいたまからは現地に参加しての支援をいただきました。

【医療生協さいたまから、初めて参加された方の感想】

「もう7年も経つのに何もかわらないの」と寂しそうに話されていたこと、本当にどうしていつまでも進まないのでしょうか？10時間の往復に疲れましたが、初めて岩手の被災地を訪れることができました。通りや市街地は「津波到着」の看板を見なければわからないほどに復興しているように見えても、現実にはまだ多くの仮設住宅が不便な所にあって、肩を寄せ合うように助け合って暮らしている方々がいることを私達は決して忘れてはいけないと思いました。



地元に戻って、たくさんの方に今回のお話をさせていただければ嬉しいです。



今後のみやぎ生協ボランティアセンターについて

みやぎ生協では、被災された方々に身近で寄り添う活動として、県内4カ所（仙南・仙塩・巻・県北）にボランティアセンターを設置し「ふれあい喫茶」を中心に活動を進めてきました。震災から7年を経て、被災された方々の恒久的な住まいへの移行が進み「ふれあい喫茶」の活動も減少していることから、県内4カ所のボランティアセンターを2018年6月21日から「みやぎ生協ボランティアセンター」として、ひとつに統合することにしました。活動については今まで通り、継続してすすめていきます。活動の様子は、みやぎ生協広報誌「RaKu:Me（ラクミー）」やホームページなどでお知らせしていきますので、これまで同様、ご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。



被災地の今 気仙沼向洋高校

気沼市波路上にあった宮城県気仙沼向洋高校は震災で被災し、現在は気仙沼市九条のプレハブ校舎を学び舎としています。気仙沼市長磯中原に新校舎を建設中で、今年度夏には移転予定です。

旧校舎は震災遺構として、当時の姿をできる限り残して保存され、震災伝承館が併設される予定となっています。今年1月に工事が始まり、公開は2019年3月予定とのことです。



現在の学び舎（気仙沼市九条）



震災遺構の旧校舎（気仙沼市波路上）



新校舎（気仙沼市長磯中原）



食事調査（放射性物質摂取量調査）参加者の集いを開催。

コープふくしまでは5月16日、17日の2日にわたり、食事調査（放射性物質摂取量調査）参加者のつどいを開催しました。日本生協連商品検査センターの職員2名が食事調査の結果やこれまでの経過について報告し、参加者同士で意見交流を行いました。

震災後7年経過し、放射線について話す場も少なくなりました。参加者からは、「久しぶりに摂取量について考える時間が出来て良かったです。」「普段の買い物なども、迷わず県産・地元の物をだいたい購入することが出来て、安心した日々を過ごしています。」などの感想がありました。



全労済フレゼンツ「もりのおんがくかい」を開催♪

6月2日に全労済の支援企画で、コヨット！第2回「もりのおんがくかい」を開催しました。福島県在住のキーボード&シンガー藤野恵美さんと口笛演奏者柴田晶子さんによる演奏に、9家族小学生15名と保護者13名が聴き入りました。

みどり鮮やかな森の中に口笛と音楽が奏でられると、口笛の響きと美しさに子どもたちも大人も大感激！子どもたちが参加したオルゴール演奏では、柴田さんがマリオネットを操りながら子どもたちの演奏に合わせてくれました。全労済ピットくん、CO・OP ラブコモ登場して音楽会は大いに盛り上がりしました。（福島県生協連）



【参加者の声】

「森の中で口笛を聴くのはすごくリフレッシュできました。口笛がこんなにもキレイな音だと初めて知りました。原発事故のせいで外での遊びたいと思う気持ちが子ども



たちにはないので、親の私のせいかと思ってしまいます。一生懸命小さい頃から外へ連れ出して遊ばせていけば、外で遊ぼうという気持ちになってくれたかもしれないと思ってしまいます。今回久しぶりに自然の中へ連れてこられたのでよかったです。」

ご挨拶

今春から組合員活動部に着任しました、末永と申します。前任の小池から業務を引き継ぎました。これまで、岩手、熊本、九州北部豪雨後のボランティア活動に参加し、コヨット！には先日事務局スタッフとして初めて参加させていただきました（その様子は次号に）。少しでもお役に立てますよう、頑張りたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

発行

日本生協連 組織推進本部 組合員活動部
電話 03-5778-8124 Fax 03-5778-8125

担当

末永、上田